

ブラジル遠征を終えて

「地球の裏側にはどんな世界が広がっているのだろう。」遠征前はそのような期待で胸がいっぱいでした。そしていざブラジルに着くと、外の景色は日本では見られないほど壮大さを感じるもので、サッカーについても世界のトップを走る続けるブラジルの強さとうまさを痛感させられました。特にブラジルの選手と対戦してみて自分たちと大きな差があるなと思ったことは、ボールを簡単に奪われないということです。ボールをコントロールするテクニックや相手に体をぶつけられてもブレない強さ、相手に追いつかれないスピード、そしてボールを奪われないようにどのようにボールを動かすかというアイデアの豊かさなど、ひとつひとつの細かな違いが自分との大きな差になっていると思いました。また、街のスタジアムで試合をしていると次第に人が集まってくる雰囲気もいいなと思ったし、その声援の中で試合をするという経験ができてとても楽しかったです。

遠征終盤の観光では、日本で見ることのできない自然や壮大な景色がたくさんありました。当初は2週間もあるなと思っていたら、想像していた以上に毎日が楽しく、あっという間に終わってしまいました。2週間では足りないくらい素晴らしいところだったので、絶対にまた来たいです。

最後にブラジルで指導してくれたコーチの方々や先生方、遠征を支えてくれた人たち、そしてブラジルに行かせてくれた両親に感謝をし、この経験を今後に生かしていきたいと思います。

今、僕はブラジル遠征を通じて、サッカー面、生活面ともに、とても多くのことを学び、吸収できたと思っています。僕は怪我のせいで、この遠征ではサッカーをすることができませんでした。せっかくあの有名なサントス FC を含む現地のチームと試合ができるというのに、僕はピッチの外にいるというのは本当に情けなかったです。しかし、ピッチ外から渋幕サッカーを見ることは、僕にとってはとても勉強になりました。ピッチ外では一人ひとりの選手の動きが全て見えるので、「そこが遅い」「そのポジション悪いな」ということがはっきりわかります。このようなことを周りの選手にどんどん伝え、皆がもっとコミュニケーションが取り合えるようになったらいいなと感じました。

そしてそして、ブラジルはやはり自然が半端じゃない！ 特にイグアスの滝にはもう圧倒されっぱなしでした。あの、大きな岩をも飲み込んでいく激流を、僕たちのサッカーで表現したいな、とも感じました。残りのリーグ戦、そして直ぐにやってくる新人戦。支援してくれた両親や面倒を見てくださった先生方のためにも、一発かましてやりましょう。